

Takano

タカノ株式会社

証券コード 7885

タカノ通信

1999/VOL.8

第47期中間事業報告書

平成11年4月1日～平成11年9月30日



タカノ通信 vol.7 で行ったアンケート結果によると健康福祉事業について、皆様にご質問と期待の言葉を沢山いただきました。そこで、健康福祉事業の現状と今後の展開並びに基本的考え方につき、堀井会長にお話をいただきました。

Q. まず最初に、どのような考えで健康福祉事業へ参入されたのかをお話してください。

福祉関係の事業を始めようとしたきっかけは、第一に今後日本の高齢化社会の進むスピードが非常に速く世界一のレベルでそれが進行してくるということがあげられます。高齢者(65歳以上)人口が厚生省の試算によると、2005年には全人口の約19%、2010年には約22%程度になるといわれております。このように今後の市場の伸びが確実に見込まれ、将来性がある分野だと判断したためです。

また、高齢化が進展する一方で日本では高齢者や障害を持つ方に対する配慮や取り組みが米国や欧州と比較して非常に遅れております。20年ほど前に米国のある空港にいったとき、ハンディキャップのある方を支援するための窓口が開設されており非常に感銘を受けました。日本においてはそのような窓口がないばかりか逆に差別を受けているという事実がありました。

このような状況を見るにつけ、我々の持つ技術を使い、今後ますます増えてくる高齢者やハンディキャップを持った方のお手伝いをするのではないかと考えたためです。

もう一つとして、今までタカノが世の中に提供してきた商品やサービス、特に部品や産業用のものについては、当社で働いている社員にとって一般のお客様が使用している姿が想像しやすく、社員が「世の中のために役立っている」という実感がわきにくかったということがあり、社員が「自分のやっていることが世の中のためになる」ということが目に見えてわかるという事業をしたいと思っていました。この面においても健康や福祉は参入するに足る事業であると考えました。

Q. 健康福祉事業に対してどのような考え方で取り組んでいますか？

現在は車椅子をはじめとした移送・移乗などの機器類やそれらにまつわるソフトの販売を中心に事業を行っておりますが、基本的には、「高齢者・障害者の自立のお手伝い」と介護者の労力の

低減を通じて幸せを感じてもらおう」というコンセプトをもって事業に取り組んでおります。「高齢者・障害者の自立のお手伝いをする」ということは、被介護者の自立心を失ってしまうような機器やサービスは提供しないようにしようと考えています。要するにせりり尽くせりで被介護者がなにも手を下すことなくいろいろなことが



できるという装置や機器ではなく、身体の機能が残っている限りその機能を使い自発的に自立心を持ち操作等を行えるような機器やサービスを提供しようと考えております。さらには、リハビリという意味を含め身体の機能を維持するだけでなく

向上させるようなものを提供していきたいと思っております。そして、以上のようなことを通じて今よりは少しでも幸せだなと感じられるようなお手伝いを我々ができたらと考えております。

Q. つぎに販売の体制や現在販売している特徴的な商品について教えてください。

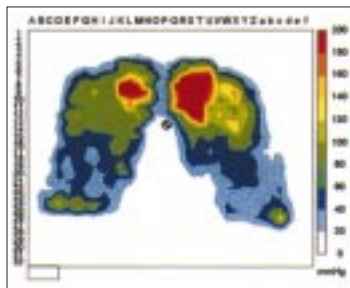
現在の販売体制は、大きく分けると本社所在地に隣接する介護ショップでの商品・機器の販売と東京営業所を拠点としたエンドユーザー・施設等への直接販売に分かれております。なぜ、直接販売という体制をとっているかといえますと販売・流通における中間マージンを減らすことによるべくお客様にリーズナブルな価格の商品・サービスを提供していきたいという意図からです。

商品につきましては、先ほど申し上げましたとおり、移送・移乗関係の機器を中心に販売をしているわけですが、そのほかに、カナダにあるビスタ・メディカル社と提携をして「体圧分布測定装置」という商品を販売しております。

この「体圧分布測定装置」は、体の圧力がかかっている部分をセンサーによって読みとり、デジタル化し、パソコンのディスプレイ

ーにカラーによって圧力を表示したり、3次元の形状を表示したりする装置で、介護機器の開発ツール・販売ツールの他、リハビリ

リツール・機器・用具の選定ツール用に利用されており、高齢者や障害のある人は体をあまり動かすことができません。体を動かせないということは体圧が一部分の



るにかかり、その部分の血流を悪くし、筋肉疲労や床擦れを起こす原因となります。特に床擦れは大きな問題です。この問題を解決するために「体圧分布測定装置」はあらゆる面で非常に役に立ちます。当社でもカスタムメイドの車椅子用クッションの開発・販売にこの装置を活用しており、現在車椅子用クッションの分野では日本一の販売実績を誇っております。

Q. 今後投入する新商品などがありましたら教えてください。

今後投入する新商品についてお話ししますと、現在次世代の商品としてもっとも期待をしているのが、米国テキサス州にあるパートナー社と提携をし、同社が開発したものをタカノが改良・商品化した「トランスファーシステム」と自社開発した「ストレッチャー・ウィル・チェア」です。

「トランスファーシステム」は、ベッドに寝ている高齢者や障害者を簡単にストレッチャー（搬送台）に移動できる機器で、低学年の子供一人の力で体重100kgの人を手動で動かすことができるため、看護婦や介護者の労力を大幅に軽減することができる画期的商品です。

「ストレッチャー・ウィル・チェア」はワンタッチで車椅子としても利用できるストレッチャー（搬送台）です。この両商品とも日本においては販売・メンテナンス体制が整い次第、医療施設や家庭向けに販売する予定で、来期（平成13年3月期）の業績への貢献が大いに期待できます。

Q. 東京国際福祉機器展へ出展されましたがその状況を教えてください。

10月の13日から15日にかけて東京ビッグサイトで12万人を集めて行われた国際福祉機器展に当社は出展いたしました。クッションを始め立ち上がり補助椅子、その他グッズのほか先ほどお話ししました「トランスファーシステム」と「ストレッチャー・ウィル・チェア」も展示しました。昨年と比較すると集まっていたいた方は3倍ほどにのぼり、大変好評の内に展示会を終えることができました。様々な方に当社の商品に興味を持っていただき、この展示会は健康福祉事業発展の起爆剤になるものと信じております。

また、今回の展示会にとどまらず、グローバルな展開に結びつけるべく、11月初旬に米国ニューオーリンズで行われた医療機器展にもパートナー社と共同で出展し、来客の皆様や業者の方から大変に好評をいただきました。

Q. 最後に、今後の事業の見通し・展望などを教えてください。

現在、健康福祉関連製品の売上規模はまだ小さいため、さらに注力していくことによって売上高の伸びは当面は高い水準を示すと思われませんが、福祉の仕事は小規模企業から始めて自動車メーカー・サービス業まであらゆる企業が今参入しております。この中でタカノが生き残っていくためには商品の絞り込みをしていく必要があります。現在タカノでは移送・移乗という部分にターゲットを絞り込んで事業を行っていますが、今後は他社との提携や介護福祉のソフト部分などの展開によって新たな方向性も考えられます。福祉の展示会などへいってみると、興味があっても一般の人は手が届かないような高額な商品が多いということがよくわかります。そのような中で、タカノはお客様の立場に立った商品やソフトの開発を行うとともにリーズナブルな価格での提供を行うことにより、タカノ全体の中の一つの柱となる事業に育て上げていきたいと考えており、そのねらいもかなり具体的に進みつつあります。

ありがとうございました。

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、平素から格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
当社の第47期上半期の業績ならびに下半期の見通しについて、
次の通りご報告させていただきます。

(1) 当中間期の概況

当中間期におけるわが国経済は、不況の長期化による雇用不安は払拭できず、一方、個人消費には緩やかな回復がみられたものの、依然として設備投資、住宅投資については低迷基調にありました。企業サイドにおきましても収益見通しの大幅な下方修正が相次ぎ、加えて、在庫調整や円高要因があり、全般的に力強さに欠け、厳しい状況で推移しました。

このような環境のもとで当社は、価値ある製品の開発、間接費を含めたトータルコストの削減、営業力の強化、新製品開発等に積極的に取り組んでまいりました。また、スタッフ部門におきましても、パソコンネットワーク活用による生産性向上に努める等、経営全般にわたり活性化・効率化に積極的に取り組んでまいりました。

しかし、企業リストラの実施および雇用調整等の影響によるオフィス家具業界の需要の落込みは長期化しており、売上高は7,740百万円となり前年同期比297百万円(3.7%)の減収、経常利益は485百万円で前年同期比61百万円(14.4%)の増益、中間純利益は245百万円で前年同期比38百万円(13.5%)の減益となりました。

(2) 通期の見通し

今後のわが国の経済見通しにつきましては、第二次補正予算の編成など政府主導による景気の下支えが期待されるものの、民間需要の回復力が弱く、株価や為替の動向、米国経済の行方、コンピューター西暦2000年問題等の不安要因により、景気の回復にはまだ時間がかかるものと予想されます。

当社の主力部門でありますオフィス椅子部門におきましては、企業のリストラのさらなる進行も見込まれることから、数量、価格の両面での回復は期待薄と思われませんが、引き続き価値ある製品の開発および効率経営の推進により、業績の向上に努めてまいり所存であります。

このような状況のもとで、通期の業績見通しといたしましては、

売上高	17,200百万円	(前期比 0.1%減)
経常利益	1,360百万円	(前期比 2.9%増)
当期純利益	767百万円	(前期比 13.2%増)

を見込んでおります。

平成11年12月

代表取締役会長

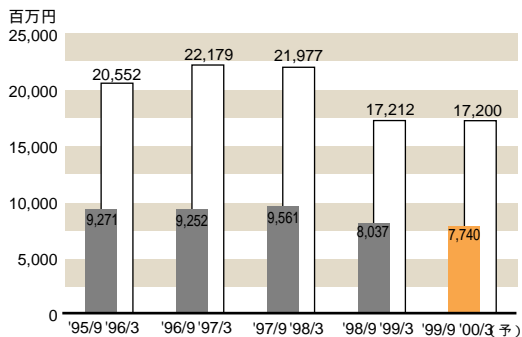
堀井朝運

代表取締役社長

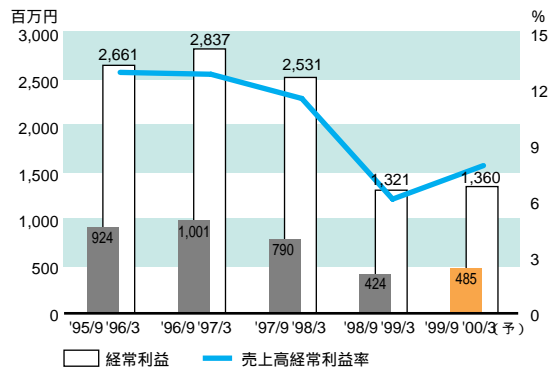
鷹野準

中間決算概要

売上高

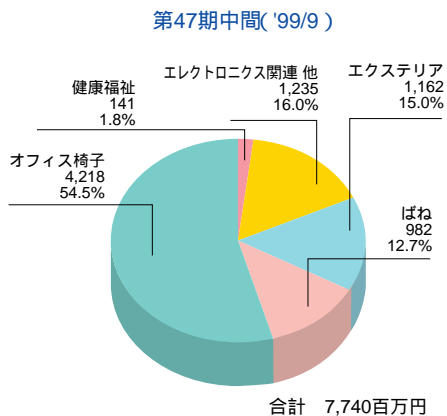


経常利益 / 売上高経常利益率

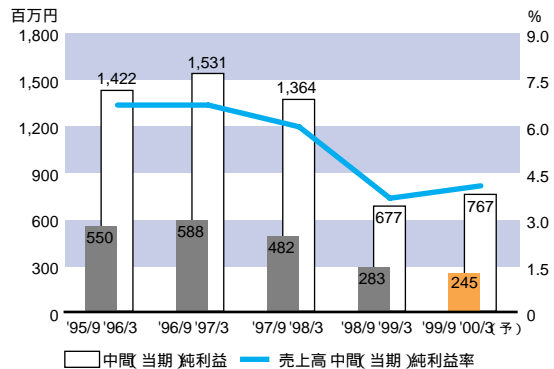


部門別売上高構成比

(単位：百万円、百万円未満切捨・比率%)



当期純利益 / 売上高当期純利益率



健康という側面から、タカノは「ハーブ」に関する研究・開発、商品化を行っております。「ハーブ」の分野はまだ事業開発段階で、展開を模索している状況ではありますが、その内容の一部を皆様にご紹介しようと思っております。

「ハーブ」は古くから食品、入浴剤など様々な用途に利用されてきました。その一方、最近では人の気持ちを落ち着ける作用を持つものとして、アロマテラピーなどで特に注目されており、多くの広がりを持った分野であります。この分野に着手した経緯としては、「バイオテクノロジー分野はすそ野も広く、将来見込める分野である」との考えから、平成元年に委託研究生として社員1名を信州大学農学部へ派遣し、その中において、ハーブの研究が開始されました。また、研究の中から数種類の特許を取得するに至り、平成6年には新規事業の一つと位置づけ、活動を行ってまいりました。

現在の状況としては、信州で有機・無農薬栽培されたハーブの苗の他、そのハーブを使用し、水蒸気蒸留法により抽出したアロマテラピー用エッセンシャルオイル「和国」と化粧水や入浴剤として活用される豊かな香りを持つハーブ水「彩香水」を商品化し、インターネットによる通販で販売を行っております。さらに、独自の特徴を持った「ハーブティー」の商品化を目指し、現在、研究・開発中であります。

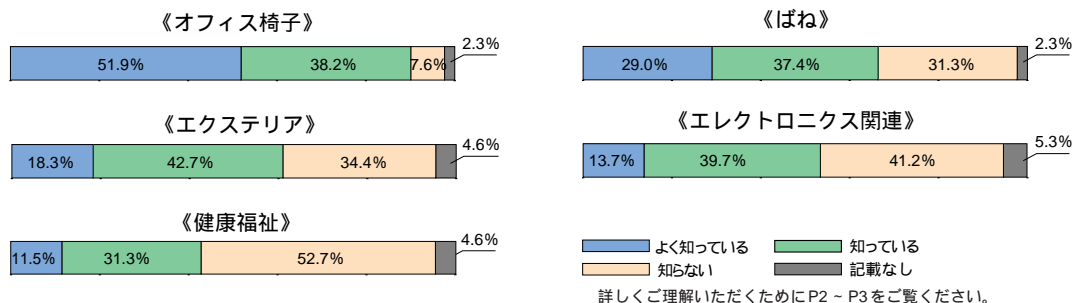
また、園芸療法やガーデニングなどの展開も視野に入れており、福祉の分野との融合も考え、事業化に力を入れております。



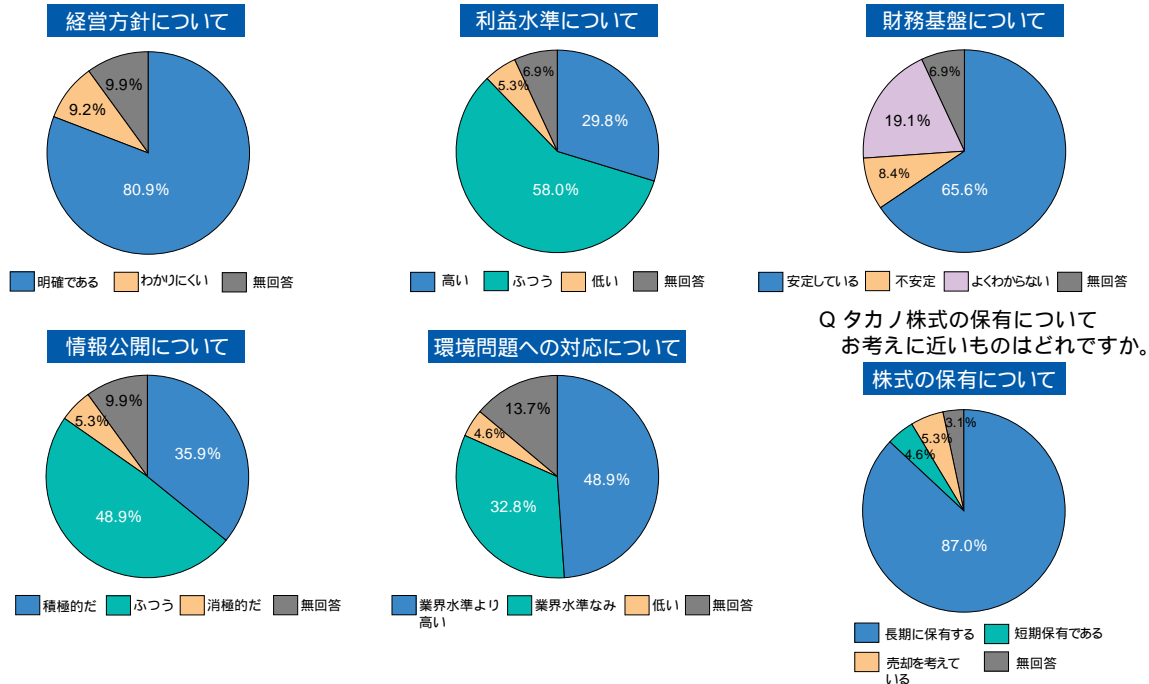
アンケートへのご回答ありがとうございました。

前回のタカノ通信に添付いたしましたアンケートに多数のご回答をいただき、誠にありがとうございました。葉書1枚1枚の向こう側に、株主の皆様の本社に対する暖かい思いや厳しさなどが感じられ、私も一同、身の引き締まる思いです。今後とも皆様のご意見を拝聴し、よりよい誌面づくりを目指し、より充実したIR活動の実践を進めてまいりたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。ここで、アンケート結果の一部をご紹介します。

Qタカノの事業分野についての理解度をおたずねします。



Q当社についてお考えに近いものはどれですか。



中間貸借対照表

資産の部		単位：百万円		
決算期	47 期中間	46 期中間	46 期	
	平成 11/9/30	平成 10/9/30	平成 11/3/31	
流動資産				
現金及び預金	8,558	8,056	7,941	
受取手形	306	1,636	199	
売掛金	4,747	3,735	6,083	
棚卸資産	1,196	1,319	969	
その他	258	289	301	
貸倒引当金	24	34	40	
流動資産合計	15,042	15,003	15,455	
固定資産				
有形固定資産				
建物	1,946	1,885	2,002	
機械及び装置	1,277	1,458	1,339	
土地	4,505	4,481	4,481	
その他	509	693	612	
有形固定資産合計	8,239	8,518	8,436	
無形固定資産	330	99	92	
投資その他の資産				
投資有価証券	3,361	2,375	3,416	
その他	213	515	481	
貸倒引当金	186	186	186	
投資その他の資産合計	3,387	2,704	3,710	
固定資産合計	11,957	11,322	12,240	
資産合計	27,000	26,325	27,695	

負債の部		単位：百万円		
決算期	47 期中間	46 期中間	46 期	
	平成 11/9/30	平成 10/9/30	平成 11/3/31	
流動負債				
支払手形	2,046	1,963	2,199	
買掛金	826	889	1,095	
短期借入金	170	118	138	
未払法人税等	232	140	295	
未払事業税等		38		
未払消費税等	45	20		
賞与引当金	334	367	341	
その他	412	504	641	
流動負債合計	4,067	4,042	4,712	
固定負債				
長期借入金	405	56	415	
退職給与引当金	1,127	1,213	1,148	
役員退職慰労引当金	158	141	152	
固定負債合計	1,692	1,410	1,715	
負債合計	5,760	5,452	6,428	
資本の部				
資本金	2,015	2,015	2,015	
資本準備金	2,157	2,157	2,157	
利益準備金	503	503	503	
その他の剰余金				
任意積立金	15,800	15,300	15,300	
中間当期末処分利益	763	896	1,290	
その他の剰余金合計	16,563	16,196	16,590	
資本合計	21,240	20,873	21,267	
負債・資本合計	27,000	26,325	27,695	

- (注) 1.有形固定資産の減価償却累計額 9,837 百万円
 2.重要な外貨建資産
 預金 505 米ドル (54 百万円)
 売掛金 498 千米ドル (53 百万円)
 3.記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間損益計算書

単位：百万円

決算期	47 期中間	46 期中間	46 期
	平成 11 年 4 月 1 日 ~ 平成 11 年 9 月 30 日	平成 10 年 4 月 1 日 ~ 平成 10 年 9 月 30 日	平成 10 年 4 月 1 日 ~ 平成 11 年 3 月 31 日
売上高	7,740	8,037	17,212
売上原価	6,285	6,612	14,025
売上総利益	1,455	1,425	3,187
販売費及び一般管理費	938	959	1,893
営業利益	516	466	1,294
営業外収益	45	49	103
営業外費用	75	90	76
経常利益	485	424	1,321
特別利益	15	32	111
特別損失	9	26	170
税引前中間当期純利益	491	430	1,262
法人税及び住民税		146	
法人税、住民税及び事業税	246		584
中間当期純利益	245	283	677
前期繰越利益	517	612	612
中間当期末処分利益	763	896	1,290

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

品目別売上高

単位：百万円

品目	47 期中間		46 期中間		46 期	
	平成 11 年 4 月 1 日 ~ 平成 11 年 9 月 30 日		平成 10 年 4 月 1 日 ~ 平成 10 年 9 月 30 日		平成 10 年 4 月 1 日 ~ 平成 11 年 3 月 31 日	
決算期	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	構成比
オフィス椅子	4,218	54.5%	5,703	59.6%	10,100	58.7%
ばね	982	12.7%	1,432	15.0%	2,329	13.5%
エクステリア	1,162	15.0%	1,291	13.5%	2,406	14.0%
エレクトロニクス関連他	1,235	16.0%	968	5.6%	2,155	12.5%
健康福祉	141	1.8%	96	0.6%	221	1.3%
合計	7,740	100.0%	8,037	100.0%	17,212	100.0%

株式の状況 (平成 11年9月30日現在)

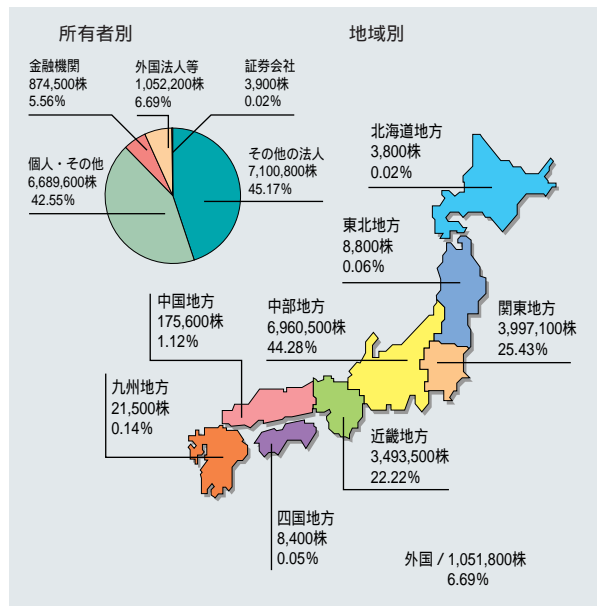
株式の総数

会社が発行する株式の総数 50,000,000 株
 発行済株式の総数 15,721,000 株
 株主数 1,085 名

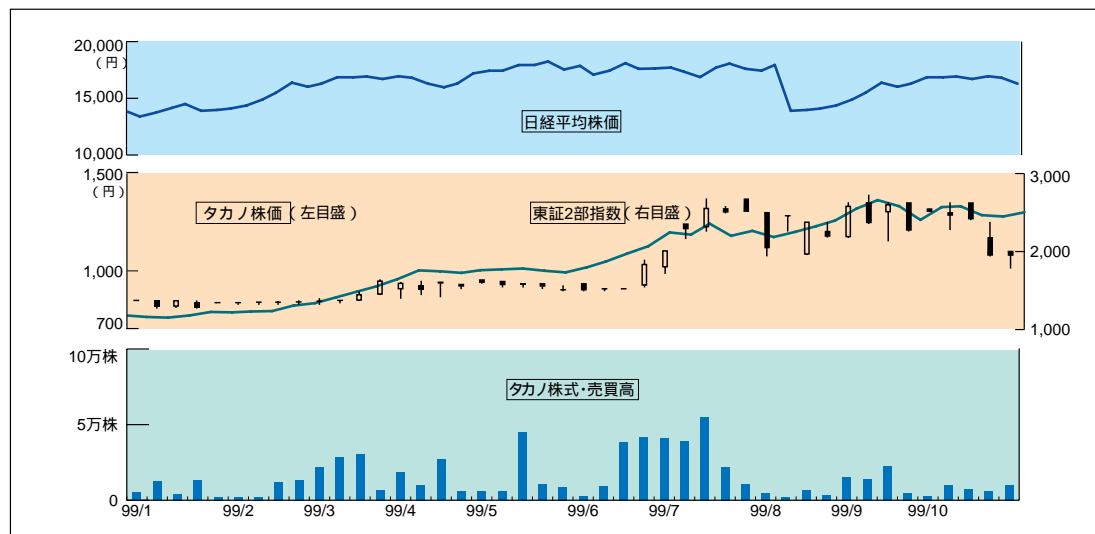
大株主 (上位 10名)

株主名	当社への出資状況 持株数 (持株比率)
コクヨ株式会社	3,151,500 株 (20.04%)
日本発条株式会社	3,151,500 (20.04%)
鷹野 準	1,858,280 (11.82%)
堀井朝運	1,314,150 (8.35%)
タカノ従業員持株会	569,400 (3.62%)
LBSS6250サブアカウントケルムズフォード	432,400 (2.75%)
鷹野 力	403,620 (2.56%)
堀井良子	343,650 (2.18%)
鷹野ミナ	311,190 (1.97%)
バンクオブミュージダガンジーリミテッド アトランティスジャパングロースファンド	308,600 (1.96%)

株式の分布状況



株価の推移



株主優待制度のご案内

本年度の「株主優待」(1,000株以上ご所有の皆様)は、下記の5点の商品より1点お選びいただき贈呈いたしました。また、100株以上1,000株未満ご所有の株主の皆様には当社オリジナルの商品(韃靼そばクッキー・そばの種詰め合わせ)を贈呈いたしました。

タカノでは、株主の皆様利益還元の一環として、「株主優待」を実施しております。優待割当現在1,000株以上ご所有の皆様に、長野県にちなんだ特産品を、100株以上1,000株未満ご所有の皆様には当社オリジナルの品をご送付しております。

なお、「りんご」など季節の品物をお送りする関係上、11月に優待申込書をご送付、お申し込みをいただき、12月初旬ご送付という日程で優待を実施しております。



A. 信州安曇野のワイン



B. 信州りんご



C. 高級なめ茸「志賀の郷」



D. 信州の山いも



E. 信州富士見高原
ハム・ソーセージ



株主優待割当基準日変更のお知らせ

本年11月株主優待制度の変更を行い、従来3月31日であった優待割当基準日を9月30日といたしました。

本年より、中間配当を実施していない会社に対しても財団法人証券保管振替機構より中間実質株主名簿の報告が実施されることとなりました。それにとまひ、株主優待割当基準日を期末の3月31日より中間期末の9月30日へと変更を行いました。

この変更は、平成12年9月30日現在の株主名簿及び実質株主名簿に記載された株主より変更実施いたします。

なお、この変更により平成12年3月31日は株主優待の割当は行いません。



タカノ株式会社

〒399-4301 長野県上伊那郡宮田村137
TEL.0265-85-3150(代)

会社概要

商号	タカノ株式会社
本社所在地	長野県上伊那郡宮田村137
創業	昭和16年7月1日
設立	昭和28年7月18日
資本金	20億1,590万円
事業内容	事務用椅子、その他椅子等のオフィス椅子、 ばね、エクステリア製品、エレクトロニクス関連製品、 健康福祉機器の製造ならびに販売
上場取引所	東京証券取引所市場第2部

役員

代表取締役会長	堀井 朝運
代表取締役社長	鷹野 準
常務取締役	片桐 美義
常務取締役	鷹野 力
常務取締役	伊井島幸夫
取締役	明石 安弘
取締役	菅沼 孝彦
取締役	小田切 章
取締役	野溝 郁文
取締役	黒田 章裕
取締役	前田 次啓
取締役	黒田 錦吾
取締役	石川 康宏
常勤監査役	代田 健
監査役	小原 勝裕
監査役	河村 公二

インターネット情報

URL: <http://www.takano-net.co.jp>

事業所

本社	長野県上伊那郡宮田村137 TEL.0265-85-3150(代) 〒399-4301
宮田工場	長野県上伊那郡宮田村137 TEL.0265-85-3150(代) 〒399-4301
伊那工場	長野県伊那市西春近下河原5331 TEL.0265-72-3147(代) 〒399-4431
下島工場	長野県伊那市西春近小平3587-1 TEL.0265-73-2088(代) 〒399-4431
エクステリア工場	長野県上伊那郡宮田村2053-7 TEL.0265-85-4848(代) 〒399-4301
馬住工場	長野県駒ヶ根市赤穂14-353 TEL.0265-81-1575(代) 〒399-4117
横浜工場	神奈川県横浜市都筑区川和町639 TEL.045-931-4424(代) 〒224-0057
特品工場	長野県上伊那郡宮田村5450-205 TEL.0265-85-3727(代) 〒399-4301
東京営業所	東京都千代田区神田須田町1-13-1 タカノビル TEL.03-3253-8261(代) 〒101-0041
函館事業所	北海道函館市鈴蘭丘町3-88 TEL.0138-31-9313(代) 〒042-0958
エイムズ事業所	Takano Co., Ltd. Ames Branch 4530 Westbend Dr. Ames, Iowa 50014, U.S.A
グループ会社	株式会社ニッコー タカノ機械株式会社

株主メモ

決算期	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会については毎年3月31日 利益配当金については毎年3月31日 中間配当金については毎年9月30日 その他必要がある時は、あらかじめ公告いたします。
名義書換代理人	東洋信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内1-4-3
同事務取扱所	東洋信託銀行株式会社 証券代行部 東京都江東区東砂7-10-11 (〒137-8081) TEL03(5683)5111
同取次所	東洋信託銀行株式会社 全国各支店
1単位の株式数	100株
公告掲載新聞名	日本経済新聞